



鈴鹿市立加佐登小学校 学校運営協議会だより

第4号

令和7年3月7日発行
学校運営協議会事務局

第5回 学校運営協議会【2月27日(木)開催】(報告)

今年度最後の学校運営協議会を2月27日(木)に開催しました。

学校関係者評価について、委員の皆様からいただいたご意見(学校関係者評価)を基に学校が「今後の改善点」を検討しまとめたものを提示させていただき、さらにご意見をいただく形で会を進めさせていただきました。

当日は、各委員の皆様にご意見をいただき、次年度の学校経営の方向性を熟議していただきました。

学校関係者評価について、協議内容は以下の通りです。

- ICTのタイピング能力底上げについての必要性を子ども達にも理解させていただきたい。
→ 国の指針に基づいて指導を行うとともに、学年ごとに目標も設定しながら取り組んでいるところである。今後も子どもたちに取り組む意味も伝えながら指導していきたい。
- 達成状況がBとなっている項目がいくつかあるが、原因などがあるのか？
→ 取り組みとしては、昨年度の取り組みを継承しながら行ってきたが、本年度目標とした数値に達しなかった点があった項目は、別紙の通りの評価としている。成果に結びつかなかった点は、課題を整理分析し改善につなげていきたい。
- 先生方がそれぞれの家庭を大事にする中で、自身の人間性の成熟や豊かさにつながり、そのことが副次的に教員としての資質の向上につながっていくのではないかと感じる。
- 組織的な生徒指導など素晴らしい指導ができていると感じる。現状に甘んじることなく、継続した指導ができるようお願いしたい。
- 先生たちの仕事の中で、授業以外の仕事で削減できる仕事とはどのような仕事をされているのか？
→ 文部科学省が「学校・教師が担う業務に係る3分類」を示している。保護者や地域の皆様にもお示しできるといいと考えている。
- 地域などで担っていける仕事は、学校からも積極的に発信して呼びかけていくとよいのではないかと感じる。まちづくり協議会などの組織との連携なども検討してみるとよいと考える。

- 学校で充実した教育を進めてもらっていると感じている。ボランティアをより活用して、地域に返していただければと考える。
- 行政も地域に期待しているように、学校も地域に期待していることがわかった。働く年齢も上がっている中で、うまくマッチングさせながら進んでいくとよいと感じる。
- 道徳の時間はあるのか？評価はどのようにしているのか？
 - 特別な教科道徳として、週1時間、教科書をもとに授業を行っている。評価については、文章表記し、毎学期あゆみ（通知表）で保護者に伝えている。
- 今の時代の親は仕事が忙しく、子どもの事は学校におまかせと言った傾向があるように感じる。学校・家庭・地域が連携しながら仕事の割り振りを明確にしてもらえればと感じている。夜遅くまで仕事をしている先生方の姿を見かけることがあるが、リフレッシュしていくことで良い活動ができると考えるので、難しい点ではあるが、今後も働き方改革を継続していただければと思う。
- 全体を通して良い活動をしていただいていると感じている。学校関係者評価については、高い目標を設定すると達成が難しくなる場合もあるので、目標値の検討も含め、そこに至るまでのプロセスを大事にしながら、ステップアップできる方法を工夫し取り組みを進めていくのも一案と感じている。
- 学校運営協議会の委員になって、はじめてここまで細かい目標が設定されていることを知った。国や県の方針を基に取り組みが進められているのだろうと理解するが、その一方で保護者は、学校で授業に参加できて怪我なく元気に過ごしてくれればいいな、という程度に考えている方が多いのではないかと推察する。そのため、学校の目標や取り組みと保護者の意識に差が生じ、その点が学校としても苦慮しているのではないかと感じている。保護者の価値観や家庭環境も様々なので一概には難しい点もあるが、学校の取り組みや考えをできるだけアピールして、先生、子ども、保護者、地域が共に頑張っていける環境を作っていただきたい。